

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市幸町南児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク
3 指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和6年度 10,449人(前年度比 94.3%) ・令和5年度 11,085人 ・令和4年度 11,242人
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 26,869千円(29,861千円) ・ その他市が負担した費用 0千円(0千円)
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円(0千円) ・ その他収入 0千円(0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者説明会を実施。

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	31/31
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、こども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。地域との交流事業においては、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク）による自己評価》
幸町南地区は年々児童数が減少しており、児童クラブの登録数も減少してきている。今年度から本児童館は2単位から1単位となり職員数も減となった。少ない職員でも乳幼児や児童の安全を確保し、目標である「あふれる笑顔 わくわくじどうかん」を達成するために、地域連携や行事を見直して取り組んできた。 自由来館の乳幼児親子は、パペットでお迎えと見送りをし、温かい空気感作りに励んだ。子育て支援クラブ「こうなん」との連携企画は、恒例のパン作り教室に加え、健康教室、変身コーナーなど多岐に渡った。ライオンズクラブのご支援も得ておさがり会も開催した。宮城野障害者福祉センターのお祭りですずめ踊りを披露した。またこちらからもボッチャ交流会に招待し交流を深めることができた。幸町南赤十字奉仕団の皆様には非常食づくりや防災クイズをしていただき、数年ぶりに一堂に会してカレーライスを食べることもできた。小松島包括支援センターの方々と初めて認知症教室を開催したが、クイズや靴下履き競争、紙芝居など子どもが楽しく学べる企画であった。館まつり(コミ・カンまつり)は過去最大15団体の参加があり、盛大に開催することができた。昨年以上に地域団体やサークルと連携を強化することができたと思う。 児童クラブに登録している子どもの殆どが低学年であるが、自由来館で遊びに来る子どもたちは中高学年も多いので、望ましい人間関係が育っている。児童館を卒業していった子どもたちが、学校の友達を誘って遊びに来ている。児童館が子どもたちの安全な遊びの基地として認識されてきていると考える。今後もそうあり続ける努力をしていきたい。また生活の中で生まれる問題について子どもたちが自由に意見を出し合い、新たなルールや仲間づくりの方法を見出せたのはうれしい限りである。1年間を無事故で終えられたのは、最も重要で大きな実績ではないかと考える。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
児童健全育成事業においては、上学年の児童を対象とした登録制の「プチはっぴーサウス」で子ども達が意見を出し合い、年間計画を立て、運動遊びや館外活動、創作活動等多様な内容で土曜日に定期開催している。こどもの意見を活動に反映して主体的に行事や活動をつくり上げていく場を提供し、達成感や自己肯定感を得る機会となっている。また地域の子ども達が児童クラブを卒所した後も友達と共に遊びやくつろぎを求めて児童館を利用しており、小学生の自由来館者数が昨年度より増加し、地域における小学生の居場所となっている。 子育て家庭支援事業においては、登録制の「さいわいくんタイム」や自由参加の「よちよちドロップ」を季節の制作や行事、親子のふれあい遊びなど多様な内容で開催し、乳幼児の遊びと保護者同士の交流の場を提供している。また「ほっとカフェ」は、のびすく宮城野の子育て相談員の協力を得て、気軽な相談の場を定期的に設けたり、コミュニティセンターの調理室を活用した託児付きのクッキング等、工夫を凝らした内容で利用しやすい環境作りに努めている。 地域交流推進事業においては、宮城野障害者福祉センターの協力を得た「ボッチャ交流会」の実施や、幸町南赤十字奉仕団の協力のもと避難訓練を実施して子ども達が防災について学ぶ場を設ける等、地域の方々との交流を通して、子ども達の自主性や考える力を育んでいる。 放課後児童健全育成事業においては、何でもご意見カードとご意見箱の設置の他、関わりの中で子どもが思いを表現できるように日々丁寧な支援に努めている。また、こどもの来館時間や遊び、生活の流れ等を考慮した上でおやつの時間や環境を適切に整えており、子どもが落ち着いておやつを楽しめるようにしている。 また、職場内研修について年間計画を作成し、関係法令や児童館ガイドライン、児童クラブ運営指針に基づいた施設の設置目的の理解や安全管理・危機管理、児童対応等、多様な内容で実施し、児童理解や児童館職員の職責について確認共有しながら職員の資質向上に努めている。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課